



所沢カルチャーパークボランティア体験会のご案内

2021年4月吉日
ところざわ倶楽部

ところざわ倶楽部では、コロナ感染防止行事として屋外での活動を推進しております。2月には、「野老澤の歴史をたのしむ会」の航空公園歴史探索に、共同で参加し30余名が集まりました。

今回は、18期修了生が中心となって立ち上がった、カルチャーパーク再生・維持活動ボランティア「ふるさと公園応援隊」の定例作業にご参加いただきたくご案内いたします。キンラン、ギンランが咲いているといいですね！

記

- ・日時： 2021年4月27日（火） 午前9時30分～11時30分頃終了
（雨天中止、前日26日に決定し、各理事から参加者に連絡）
- ・集合： 午前9時30分 カルチャーパーク駐車場（添付地図参照）
所沢市下新井1296-1 最寄りのバス停「若松町」
（航空公園発エステシティ行8:50または9:05発 所要時間4分）
- ・体験作業内容
 - ①公園内外を一周しながら、ゴミを拾い集める
 - ②伐採した樹木を、収集車が入るところまで運ぶ
- ・服装、持ち物
マスク、汚れても良い作業靴、作業服、軍手など作業手袋、
ゴミ拾い用火ばさみ（あれば）、タオル、雨具、飲物、保険証
- ・コロナ対策
検温、体調不良者は参加辞退、マスク着用、間隔をとっての
行動、ゴミ拾い時のトング使用、手洗い、
参加者名簿事業部保管
- ・申込： 参加希望の方は、4月10日（土）までに各サークル理事あてにお申
込みいただくか、事業部担当：薄井文子あて申込メール
higatoko.usui@gmail.com をお送りください。

以上

私たち「ふるさと公園応援隊」は、

所沢市民大学第18期2年次(2011年)に「都市の環境講座」(安藤先生)を学ぶ中で、「カルチャーパーク」が所沢の雑木林を象徴する自然あふれる公園であるということを知りました。当時メンバーの一人だった所沢生まれ所沢育ちの方が、はじめてカルチャーパークを訪れて際「これぞ所沢の原風景!」と述べたほどでした。

このカルチャーパークの整備が展開される過程で私たちに応援できることを考えた結果、所沢市の取り組む公園造りが、「平成11年度基本構想」(注)にのっとった公園として発展・整備されるように、市民レベルで見守って行こうということになりました。しかし、市の公園造りをただ見守るだけではあまりに消極的であることから、まずは毎月1回カルチャーパークに足を運び自分の目で現状を知ることとしました。その際、おもにゴミを拾うことで少しでも公園造りへの協力が出来るのではないかと考え、2011年10月より「ふるさと公園応援隊」として活動をはじめました。

それ以来、5年半あまりのゴミを拾いや下草刈りなどの活動を通じて、早春のウグイスカグラ、そして様々な色合いの新緑から、深緑へと変わりゆく中に咲くヤマザクラなど、四季おりおりの自然にふれて、「カルチャーパーク」が所沢の雑木林を象徴する自然あふれる公園であるという認識を一層深めました。いっぽう、森は荒れているところが多く、早く雑木林としての再生のための手入れをする必要性を痛感するようになりました。

そこで、公園課との協議を踏まえ、2017年6月から、一定のエリア内での林内の整備作業(主に常緑樹の伐採など)を行っています。また2018年の冬からは、年一回とはなりますが建設部・公園課の職員との共同での下草刈り・落ち葉はき作業も実施され始めましたが、2020年は天候不順で、2021年は「コロナ」のため中止となっていますが、今後とも続けてゆきたいと思っています。こうして、冬場に下草刈りをしたところでは、4月末にはキンラン・ギンランなどの花が咲くようになりました。

さらに、2019年4月からは、それまで月一回だった作業日を月二回として、主に林内整備に力をさいています。

今は無残にも盛り土されてしまった原っぱ広場では、保育園の子供たちが遊び、ときには整備しつつある林内まで飛び込んできたりするようになりました。

私たちは、この公園が当初の基本計画通り「自然環境保全型の都市公園」として、市民に親しまれるように発展することを願いつつ、作業を続けてゆきたいと考えております。

注:「カルチャーパーク」は、当初基本計画(平成4年・1992)では総合運動公園として計画されましたが、その後オオタカの営巣が確認されて(1997)、見直した結果、「自然環境保全型都市公園」としての基本計画が策定(平成11年・1999)された経過があります。

今回の体験を機会に、どうぞ今後ともお気軽にご参加ください。